

スポーツ埼玉 Vol.281 Sports Saitama



Sep.2018

SAITAMA
SPORTS
ASSOCIATION

Photo by Yoshinobu Terao



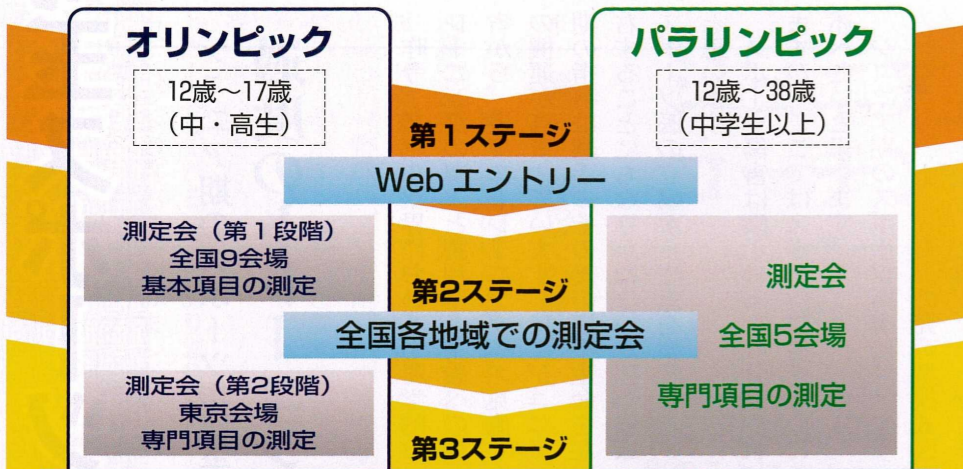
埼玉版ジュニア育成 現状と未来

<パネルディスカッション>

タレントの発掘・育成について

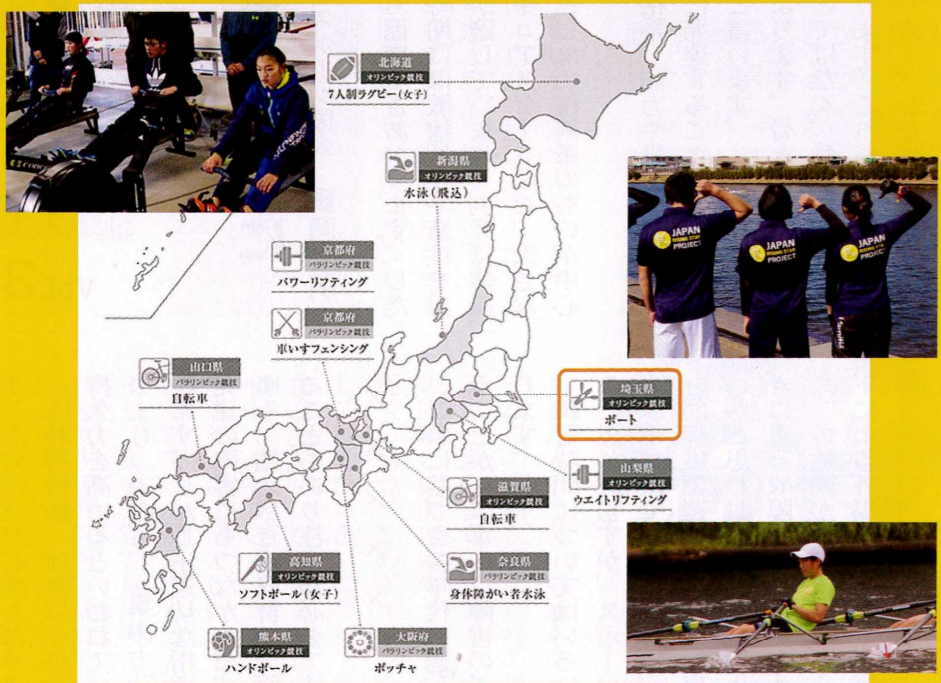
彩の国プラチナキッズ 現状報告

戸田漕艇場で奮闘するJ-STAR1期生



中央競技団体と都道府県協会の協働による検証プログラム(拠点地域合宿)

- 世界レベルの強化環境における合宿形式による集中的なトレーニング機会の提供
- 大会参加によるパフォーマンス状況の把握
- 中央競技団体指導者との緊密な情報交換



各競技団体の強化育成コースへ

数ヶ月におよぶ検証プログラムでは、発掘されたアスリートの潜在能力と適性が検証されます。これによって競技団体が求める高い水準のアスリートを見出した場合は、中央競技団体が実施する強化・育成プログラムに参加し、既に育成・強化指定を受けているアスリートと同じ土俵で切磋琢磨することになります。ボート競技では、それ以外にも、それぞれの1期生の進路意向を踏まえた日常的育成環境とのマッチング支援を行うことも計画されています。今後の1期生の動向が注目されます。

本会では、プロジェクトが始まって以来、ボート競技の拠点県として、全国各地の将来性豊かなアスリートを受け入れ、その育成を支援してきました。本プロジェクトがなければ出会うことがなかった全国各地のアスリートたちと、彼らをボート競技者として育てるために日本ボート協会と本県ボート協会の指導者がそれぞれのノウハウを結集させ、最善の指導方法を探る姿は、本プロジェクトならではの風景といえます。本会では、本県から世界に羽ばたくトップアスリートを輩出するため、本プロジェクトを通じて得たそれらの知見や指導者間のネットワークをさらに発展させ、ジュニア世代の発掘からトップアスリートへの育成までを掲げる本会加盟団体のアスリート育成活動を支援してまいります。

プロジェクトで育成継続している選手は昨年の第1ステージ、第2ステージにてボート競技への適性が認められた選手です。第2ステージでは高い水準の競技環境に対応できる「競技適正」や「競技特有のトレーニングを施してのフィジカルの成長率」などを総合的に判定し、日本ボート協会の「タレント育成システム」につなげる判定を10月末までに実施します。

プロジェクト 今後の展望

子どもたちの未来への可能性は無尽大です。しかし、ボート競技の場合日本国内では水域(トレーニング場)の近隣でしか出会えないローカル競技に位置します。まだまだ競技特性に合う選手が「ボート競技」に出会えていない可能性もあ

ります。本プロジェクトは国家プロジェクトとして、中学1年から高校3年の年代層において本プロジェクトに参画する競技の適性をより高い水準で見極めることができます。今後、さらに少子化がもたらす加速すると考えられている現在、このような一人ひとりの子どもたちの適性を見極め、効果的に競技に橋渡しできる機会は今後の競技力向上には必要不可欠だと

思います。そういう意味でも本プロジェクトに対する日本ボート協会の期待は大きいです。

戸田中央総合病院RC 浜田美咲選手らが指導

7月23日から27日までの5日間、戸田漕艇場で行われた拠点県合宿。連日の猛暑により、水上練習を早朝6時に開始するなどして、トレーニングを実施しました。この合宿では、今年の全国社会人選手権大会男子舵手なしフォアで優勝を果たすなど、多くのトップ選手が在籍する戸田中央総合病院ローイングクラブの選手・スタッフが指導に加わっていました。

ク最高位)の浜田美咲選手(県立浦和一女高↓早大)による講演が行われました。この中で浜田選手は、ボートを始めたきっかけや競技の魅力にとりつかれた高校時代の話をはじめ、大学時代に苦しんだ減量の話、それを乗り越え、尊敬する先輩選手とともに挑んだ北京オリンピックまでの話、さらにその1年後に突然襲った「イップス」の症状、その後の復活、引退、結婚、出産、現役復帰に至るまで、様々な経験談を語っていました。最後に浜田選手は「挑戦しなれば夢は叶わない。やらずに後悔するよりやって後悔する方がいい」と参加者を激励。トップを目指す選手(1期生)にとっては貴重な時間となりました。

日本・香港タレントとの合同合宿を実施

8月5日から10日には、福井県久々子湖において日本ボート協会タレント育成選手、香港ボート協会タレント育成選手との合同合宿を実施しました。平成30年3月に日本スポーツ振興センター主催による香港での「海外育成プログラム」に本プロジェクトメンバーも参加していたことから、香港の選手とは約5カ月ぶりの対面。水上トレーニングを通してお互いのレベルアップを確認しました。香港タレントは文化交流プログラムと

残り2カ月を切った 検証期間

本プロジェクト第3ステージ(拠点育成)も残り2カ月となりました。育成状況を評価するテストを選手への負荷も考え、各月1項目テストしながら「強いフィジカル」が必要となります。本プ

戸田漕艇場で 1期生が奮闘

平成29年4月より開始された第2期スポーツ基本計画及び平成28年10月に発表した「競技力強化のための今後の支援方針(鈴木プラン)」では、アスリートの発掘が重要な課題として位置付けられました。このことから、昨年度から、日本スポーツ協会(当時:日本体育協会)が、日本スポーツ振興センターから委託を受け、競技力向上事業の一環として、全国の将来性豊かなアスリートを発掘するためのプロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」がスタート。本会(埼玉県)はボート競技の拠点県として、日本ボート協会、埼玉県ボート協会と一致協力し、ボート競技の有望者として選考されたアスリートを対象に、戸田漕艇場などで合宿やトレーニング等による「検証」を行っています。ここでは、夏休み中に行われた合宿レポートに加え、ボート競技における同プロジェクト今後の展望などを日本ボート協会タレント発掘委員会スタッフの森山修氏に聞きました。

